



タイトル「**2024年度危機管理学部(公開用)**」、フォルダ「**危機管理学部**」  
シラバスの詳細は以下となります。



科目ナンバー	RMGT3604S		
科目名	危機管理実践研究 4		
担当教員	西田 亮介		
対象学年	3年,4年	開講学期	前期
曜日・時限	集中		
講義室		単位区分	選
授業形態	演習	単位数	2
科目大分類	専門		
科目中分類	専門展開		
科目小分類	専門統合・演習		
科目の位置付け（開発能力）	<p>■DPコード 学修のゴールを示すディプロマポリシーとの関連</p> <p>DP1-E[学識・専門技能]専門分野にかかる理論知と実践知を獲得し利用することができる。</p> <p>DP2-B[自己の特性を理解し社会に貢献しようとする姿勢]自己の存在意義を知り、自らを高め続けようとする努力することができる。</p> <p>DP5-J[創造的挑戦力・達成力]コンピテンスの開発を生涯にわたり継続して行うことを、自らの思考及び行動のパターンとするとともに、既存のアイデアを革新的かつ創造的に統合し、リスクをとりながら、結果に結び付けることができる。</p> <p>DP6-K[表現力・対話力]文章及び口頭で、自らの考えを的確に表現し、他者に過不足なく伝達することができる。</p> <p>DP7-L[協働力・牽引力]集団的に課題解決を行う際に、自己の立場や責任を認識し、互いに集団の連携を強めることができる。</p> <p>DP8-M[省察力]知識と経験とを関連付け学修成果を活用可能な状態に高めるとともに、これを新しく複雑な状況に転移させ課題解決につなげることができる。</p> <p>■CRコード 学修を通じて開発するマインドセット・ナレッジ・スキルを示すコモンルーブリック (CR) との関連</p> <p>B1 自己啓発 (10%)</p> <p>E1 学識と専門技能 (30%)</p> <p>J1/2 継続的学修基盤、創造的思考 (30%)</p> <p>K1/2 ライティング・コミュニケーション、オーラル・コミュニケーション (10%)</p> <p>L1 チームワーク (10%)</p> <p>M1 統合的・応用的学修 (10%)</p>		
教員の実務経験			
成績ターゲット区分	■成績ターゲット 能力開発の目標ステージと対応 3 発展期～4 定着期		
科目概要・キーワード	<p>情報セキュリティ領域の専門科目を通じて学んだ知見を、具体的な問題に適用して、グループワーク、ディスカッション、ディベート、ロールプレイ等の双方向型学修技法をに基づき再構成し、実社会において応用可能で再生産可能なスキルへと昇華することを目指します。座学と演習を通じて、直面した組織の情報収集・分析および意思決定の難しさに関して体験的な理解を深めることが本科目の目的です。</p> <p>授業形態は演習形式により行います。なお、対応するコンピテンスに基づき効果的な授業方法として、又は各授業を補完・代替するためオンライン授業を一部取り入れる場合があります。</p> <p>■キーワード：メディア、博物館、</p>		
授業の趣旨	■副題： 「博物館というメディア」と「メディアの博物館」を知る		

	<p>■ 授業の目的： メディア研究において博物館は植民地の情報を収集し、展示するなど古典的なメディアとして認識されている。他方、博物館への接点は近年失われていると思われる。「博物館というメディア」を経験的に理解するために「メディアの博物館」等を訪問し、事前事後の学修を深めて理解を深める。</p> <p>■ 授業のポイント 「博物館というメディア」と「メディアの博物館」を知るために、横浜にある日本新聞博物館（大学生入館料300円）と上野の国立科学博物館（大学生入館料630円）を訪問する。また事前事後の学習を通じてメディア等に対する興味と関心を深める。</p>																																
総合到達目標	<p>■ 「博物館というメディア」と「メディアの博物館」に関するさまざまな歴史的事実、現状、課題等について自分の考えを述べ、他者の意見との比較でその長短を述べることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・上記テーマの先行文献と課題について説明できる。</li> <li>・上記テーマの課題と現実の対応などについて説明できる。（第1回～第15回まで毎回）</li> </ul>																																
成績評価方法	<p>■ 授業参加度（70%）:適用ルーブリックE1・I1 （評価の観点）その日のポイントについての課題を課す。 （フィードバックの方法）授業内かポータルで解説する。</p> <p>■ 総括レポート1回（30%）:適用ルーブリックI1・I3 （評価の観点）総括レポートを課し、理解度を確認する。 （フィードバックの方法）講評を希望する学生に対応する。</p>																																
履修条件	特になし。																																
履修上の注意点	<p>○科目定員数 1コマあたりの下限は定めないが、上限は15名を目安とする。ただし、担当教員の判断により定員増を認める場合がある。連带的に活動の準備を行い実践するとともに、学外者にも協力を仰ぐ関係上、中途での履修放棄は厳に慎むこと。</p> <p>○履修について 卒業延期者で9月卒業見込み学生の履修は不可とする。 履修登録期間終了後の履修登録となるため、履修上限単位数に注意すること。 同一科目の複数受講は不可。 原則は1科目の履修とするが重複履修を認める場合がある。 ※スケジュール上重複履修が可能である場合に限る</p>																																
授業内容	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>第1回授業テーマ ガイダンスとメディア研究における博物館の位置付け（事前学習1日目）</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>日本新聞博物館に関する事前学習（事前学習2日目）</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>日本新聞博物館に関する関心、問題意識の報告（事前学習2日目）</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>国立科学博物館に関する事前学習（事前学習3日目）</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>国立科学博物館に関する関心、問題意識の報告（事前学習3日目）</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>日本新聞博物館における現地調査①（現地学習1日目）</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>日本新聞博物館における現地調査②（現地学習1日目）</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>日本新聞博物館における現地調査③（現地学習1日目）</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>日本新聞博物館における現地調査④（現地学習1日目）</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>国立科学博物館における現地調査①（現地学習2日目）</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>国立科学博物館における現地調査②（現地学習2日目）</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>国立科学博物館における現地調査③（現地学習2日目）</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>第13回授業テーマ 国立科学博物館における現地調査④</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>報告会と相互レビュー①（事後学習1日目）</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>報告会と相互レビュー②（事後学習1日目）</td> </tr> </tbody> </table>	回	内容	1	第1回授業テーマ ガイダンスとメディア研究における博物館の位置付け（事前学習1日目）	2	日本新聞博物館に関する事前学習（事前学習2日目）	3	日本新聞博物館に関する関心、問題意識の報告（事前学習2日目）	4	国立科学博物館に関する事前学習（事前学習3日目）	5	国立科学博物館に関する関心、問題意識の報告（事前学習3日目）	6	日本新聞博物館における現地調査①（現地学習1日目）	7	日本新聞博物館における現地調査②（現地学習1日目）	8	日本新聞博物館における現地調査③（現地学習1日目）	9	日本新聞博物館における現地調査④（現地学習1日目）	10	国立科学博物館における現地調査①（現地学習2日目）	11	国立科学博物館における現地調査②（現地学習2日目）	12	国立科学博物館における現地調査③（現地学習2日目）	13	第13回授業テーマ 国立科学博物館における現地調査④	14	報告会と相互レビュー①（事後学習1日目）	15	報告会と相互レビュー②（事後学習1日目）
回	内容																																
1	第1回授業テーマ ガイダンスとメディア研究における博物館の位置付け（事前学習1日目）																																
2	日本新聞博物館に関する事前学習（事前学習2日目）																																
3	日本新聞博物館に関する関心、問題意識の報告（事前学習2日目）																																
4	国立科学博物館に関する事前学習（事前学習3日目）																																
5	国立科学博物館に関する関心、問題意識の報告（事前学習3日目）																																
6	日本新聞博物館における現地調査①（現地学習1日目）																																
7	日本新聞博物館における現地調査②（現地学習1日目）																																
8	日本新聞博物館における現地調査③（現地学習1日目）																																
9	日本新聞博物館における現地調査④（現地学習1日目）																																
10	国立科学博物館における現地調査①（現地学習2日目）																																
11	国立科学博物館における現地調査②（現地学習2日目）																																
12	国立科学博物館における現地調査③（現地学習2日目）																																
13	第13回授業テーマ 国立科学博物館における現地調査④																																
14	報告会と相互レビュー①（事後学習1日目）																																
15	報告会と相互レビュー②（事後学習1日目）																																
関連科目	社会学1（RMGT/SSCS 1133）、社会学2（RMGT/SSCS 1134）、メディアコミュニケーション論（RMGT3572）、情報倫理（RMGT3574）																																

教科書	必要に応じて指示する。
参考書・参考URL	必要に応じて指示する。
連絡先・オフィスアワー	■連絡先：ryosukenishida@gmail.com ■オフィスアワー：都度、連絡のこと。
研究比率	■危機管理領域との対応 災害マネジメント5%；パブリックセキュリティ85%；グローバルセキュリティ5%；情報セキュリティ5% ■危機管理と法学とのバランス 危機管理学95%；法学5%



---

Copyright (c) 2016 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.